

# 妹のいる部屋

天瀬裕康



## 【登場人物】

○戦後六十年を経ても、なお心に傷を持つ人は少なくない。これは政治にも経済にも、いろんな歪みが出てきた平成十九年の春から約一年間の話。介護保険も一つの節目にさしかかっており、広島市の北の郊外にある有料老人ホーム「蓬萊園」を舞台として展開されるが、関連の介護老人保健施設「ほづらいや」「蓬萊病院」等のスタッフも登場する。

山根卓郎（七十四歳）元・地場産業の社長、認知症の兆候

藤子（七十二歳）卓郎の妻、軽い関節痛、原爆手帳保持

雄一（四十四歳）山根家の長男、地方公務員

早苗（七十歳くらい）卓郎の妹

田中良治（七十二歳）蓬萊園 管理人、（ほづらい）事務長

石川朝子（二十七歳）蓬萊園 事務員

大村理沙（二十九歳）看護師の資格もある介護福祉士

高橋 聡（五十一歳）蓬萊病院勤務の内科医、ときに来所

河野和夫（七十六歳）元・地方出版社社長、（蓬萊園）の隣人

静香（七十三歳くらい）和夫の妻

中西忠直（七十七歳くらい）元・官僚（蓬萊園）二号の住人

鈴江（七十四歳くらい）忠直の妻

高木夫妻（七十年代後半？）一号の住人、あまり姿を見せない

横井久武（七十三歳くらい）一号の住人、趣味は俳句

奈津代（七十歳くらい）環境保護運動をしている  
その他 蓬莱病院 等の従業員若十名

\*\*\*\*\*

【用語】

Up（アップ）クローズ・アップ（

B・S（バースト・ショット）人物の胸から上をとるサイズ

W・S（ウエスト・ショット）人物の腰から上

F・S（フル・ショット）部屋などを一杯にとるサイズ

G・S（グループ・ショット）グループを全体として写す

パン 位地はそのままカメラを振る

O・L（オーバー・ラップ）Aが消えかけるとB画面が出る

D I S（ディゾルプ）Aが消えけると同時にBの画面が現れる

ワイプ 画面の一方から画面が変わってゆく

ホロー 人物の動きにカメラが付いてゆく

ズーム サイズを替える ズーム・イン、ズーム・アウト

F・I（フエイド・イン）溶明

F・O（フエイド・アウト）溶暗

S・E（サウンド・エフェクト）音響効果の指定

フィルター＝フィルターマイク使用

\*\*\*\*\*

1 アバンタイトル風に

○心接間らしきところで夫婦の会話

藤子 あなた、決心はつきました？

卓郎 蓬莱園のことなら、もう決めたぞ。……必要なものを

整理しとるところじゃ。

藤子 では、私も整理を急ぎましょう。必要なのは、貯金通

帳や証券類くらいですけど……。

卓郎 ま、よろしく頼みます。わしゃあ、早苗の部屋もちゃ

んとせにゃあいかんし……。

藤子 ……（ちよつと変な顔をする）。

卓郎 保証人の件もあるけえ、雄一に事務所へ行って貰って

くれ……。

O・L

2 高速道路北側の丘陵地帯、森の中に建物が散在している。

○平成十九年四月十日（火）

○高速道路側から奥に向けてパン。六階建の蓬莱病院、四階

建の介護老人保健施設 ほつらい など関連施設 奥の平

屋・一軒建の小家屋群のところでズーム・イン。 蓬莱園

の敷地入口あたりで止める。

藤子 桜が咲いてるわ。

雄一 今日は晴れてるし、気持ちがいいですね……。

ホロ一

○藤子と雄一が、五号棟の表示のところまでちょっと立ち止まるところから事務所へ行く。

ワイフ

3 事務所の中、田中管理人が出迎えて椅子を勧める。

F・S

田中 どうぞ、どうぞ。お忙しいところを、どうも……。

雄一 (名刺を出しながら)この度は、父や母がお世話になることになりました……(腰を下ろしながら)早く伺いしなればいけなかったのですが、月曜日は会議が多いものですから、今日にさせて頂きました。

田中 私ども同じでございます。今日はこちらでお待ちしましたが、たいていは介護老人保健施設 ほつらいの事務室にあります。山根さんは、今日は自家用車で……？

雄一 はい。私が運転して、病院のほつに置かせて頂きました。ほつらいにも駐車場はありますか？

田中 ございます。でも、数が少ないので病院のほつが確実でしょう。蓬菜園 は、ノー・ドライブ、ノー・スモークですが、この点は大丈夫でしょうか？

藤子 大丈夫です。今度の話が出てからは乗っていません。タバコは二十年まえに禁煙しました。糖尿病のインスリン

は自分で打っています。

雄一 それで、引越しの日なんです……四月末からの連休のところは避けたほうがいいですか？

田中 これは普通の引越しと同じように考えて下さってよいのですが、こちらのスタッフの半数が交代で休みますので、ご不自由をおかけするかもしれません。

藤子 でしたら、連休前に荷物だけ運び込んでおいて、家のほつも簡素にして馴らしておきましょう。それから連休後に主人と私が引越して構いませんか？

田中 どうぞ、どうぞ……。

F・O F・I

4 蓬菜園 五号の内部、リビング・キッチン

○卓郎が自分の部屋から出てきて、椅子に坐る。藤子も別の部屋から出て来て傍に坐る。

卓郎 引越しを済ませて三日……近所の挨拶回りも済ませました。あとは馴れるだけか……。

藤子 お部屋の整理はできました？

卓郎 ああ。たいしたものはないけど、整理は済ませた……。あなたは大変だったじゃろつ。

藤子 いえねえ、たいしたものはありませんから。……お茶を入れましょうか。紅茶、コーヒー？

卓郎 レモンがあつたら紅茶、午後の紅茶つてところだな。

藤子 ありますよ。(言いながら立ち上げる)

○大型の冷蔵庫を開け、流しのほうに行き湯を沸かす。

卓郎 今年のフラワーフェスティバルは、天気がよくなかったなあ。晴天は最初の五月三日だけだったよなあ。

藤子 そうでしたねえ。

卓郎 雄一が子どもの頃には、よく連れて行ったもんじゃが……お袋も親父もいた……仏壇はどうなったかの？

藤子 私の部屋に安置してあります。一番小さいのを買いに行つたじゃありませんか……。

卓郎 ああ、そうじゃつたのう。

F・O

5 六号のリビングキッチン

○卓郎が隣の河野と一緒に入つて来る。

卓郎 どうぞ、お掛け下さい。ここしかないんで、お客さんには大変失礼と思いますが……。

河野 いやあ、どこもみな同じ建て方ですから……私も最初は肩身の狭いような感じを持ちましたが、すぐ慣れました。

○藤子が出て来る。

藤子 河野さんは、コーヒーか紅茶か？

河野 奥さんどうぞ、お構いなく、でも、なにか頂くのなら

ただのお茶のほうがいいんですがね。

藤子 では、すぐに。(卓郎のほうに向いて)あなた、お礼は言つて下さいました？ マスカットを頂いたこと……。

卓郎 そうそう、結構なものを頂きまして恐縮です。

河野 ありやあ家内の実家がつとるもんですから……いまはもう、果物の季節感はなくなりましたがねえ。

卓郎 そうですねえ。これから世の中、どうなるのやら……。河野 物騒な社会になってきましたねえ。……広島市の市長選

は予想通りでしたが、長崎では選挙運動中に伊藤市長が射殺されましたよねえ……。

藤子 (お茶を持って出て)ほんの粗茶でございます。主人が糖尿病なので、お菓子の買い置きがなくて済みません。

河野 おや、それじゃあマスカットはブドウ糖を食べるようなもので、悪かつたかな？

卓郎 (慌てて)いやいや、大丈夫ですよ。それより、さつきの話の続きをどうぞ……。

藤子 どうぞ、ごゆっくり。(退出)

河野 じゃあ頂きます。……ええと、市長さんの話でしたよね……大阪の横山ノック元市長の死亡もありましたよネ。

卓郎 よく憶えていらつしやる……情報関係のお仕事でも？  
河野 若い頃、新聞記者をしていましたね、事件らしいものは頭に残るんです。山根さん、あなたは？

卓郎 私は根っからの技術屋でして、自動車工場の下請け、部品工場をやっていました。

河野 じゃあ、ご長男が跡継ぎをして……？

卓郎 いえ、長男は公務員になって、娘婿が跡を継ぎました。

河野 似たようなもんですなあ。お互い残り少ない人生、楽しく行きましょーよ……。

O・L

6 数日後、五月下旬の夕方、同じ部屋。

○卓郎はテレビの大相撲の実況を見ている。

卓郎 おーい、朝青龍が負けたぞー！

藤子 (自分の部屋から出て来る) なんです、大きな声を出して……。あら、もつこんな時間なの……。夕飯の支度をしなくっちゃあ……。

○テレビでは土俵に多数の座布団、拍子木の音がする。

DIS

卓郎 (夕食をしながら) ……河野さんはな、新聞記者上がりで、広島島の出版社の社長さんだったそうだ。

藤子 道理で物知りだわ。

卓郎 政治も経済も……生活の知恵もある。私より二つ年上らしい。終戦のときが中学二年だったぞうだ。

藤子 あなたは小学校、あの頃の表現で言えば国民学校の六

年生、私は四年生……。

卓郎 私の妹の早苗は二年生じゃった。

藤子 止ましようよ、昔のことを言っても仕方がないわ。それより、ご自分の検査を受けて来られたら？

卓郎 (不満げに) 血糖の自己測定なら、こつちへ来てからも、ときどきやつとるぞ。

藤子 血糖以外にも、いろいろありましょー……病院へ行くときのこと、訊いてみましょーか？

卓郎 いや、自分でやる。ここの事務所で、まず大雑把なことを訊いてみるよ……。

F・O

7 蓬菜園 一号・横井家、一号・高木家、三号・中西家、次は事務所で四号なし。五号・山根家、六号・河野家と並んでいる。五号は、以前の奥さんが脑梗塞で倒れ、転居したので、そのあとに山根夫妻が入ったのだった。

○三号のまえで、その住人中西鈴江と山根藤子が立ち話をしている。鈴江は、物静かな女性。

鈴江 ……先日、ご丁寧な挨拶回りをして下さいましたのに、主人が留守をしております、失礼しました。

藤子 いえ、とんでもございません。ご主人は位の高いお役人だったとか……。

鈴江 そんなことはございせんが、霞ヶ関で仕事をして  
いたことはありますので、多少は政界・財界の醜い部分も知  
っていたようでございます。

藤子 農林大臣が自殺なさいましたけど……？

鈴江 お気の毒なことでございます。

藤子 緑資源機構でございますか、あそこも問題が多いとか  
聞きましたけど……。

鈴江 あの前身に森林開発公団というのがございましたが、  
そこで理事をしてらした方も、自殺なさいました……。

○事務所のまえにタクシーが停まり、一号の横井夫人が降りて  
来る。

横井夫人 天気がよくて、よろしくございますわね。(ちよっ  
と会釈してから一号棟のほうへ小走りに去る)

鈴江 あの方は、環境保護団体で活動しておられるようです。  
……あなた、日用品の買出しは、ご不自由なしに？

藤子 はい、事務所の人にお願ひしたり、介護の車に便乗さ  
せてもらったりして……いろいろ有難うございました。

O・L

8 蓬菜園 事務所の中。山根卓郎が受診の相談に来ている。

○常駐の女性事務員・石川朝子が応対に出ている。

石川 病院の受診のことですね……一時には看護師の大村さ

んが出て来ますので、しばらくお待ち下さい。

山根卓郎 ここにて、いいですか？

石川 大丈夫ですよ、どうぞ……。

○看護師の大村理沙が時間通りに出て来る。

大村 山根さん、なにか変わったことでしょうか？

山根卓郎 そっじゃあないんですが、糖尿病がありますし、

以前の主治医からの紹介状と検査データがありますので、  
一度、蓬菜病院に行つといたほうがよい、と思ひましてね。

大村 急がれますか？

卓郎 いいえ。五月の初めに検査をしていますから、六月に  
なつてからでいいでしょう。家内も行くかもしれません。

関節が痛い、と言つていましたから……。

大村 希望日がございますか？

卓郎 そつですわねえ……(手帳を出してチェックしながら)五日  
の火曜日にさせて下さい。「大安」になつてる。

大村 (笑いながら)それなら私から受付へ伝えておきますが、  
先に保険証や老人手帳、紹介状などを持って行って、カル  
テを作つておかれたほうがよいでしょう。奥さんは被爆者

健康手帳もお持ちでしたか……。

卓郎 分かりました。(立ち上がりかけると)

大村 山根さんは、散歩はしておられますか？

卓郎 いいえ。家にいたときはしていましたか……。

大村 では、是非、再開して下さい。老化は足からですが、特に糖尿病のある人には大切ですよ……。

ワイフ

9. いつもの五号のリビングケキチン

○卓郎と藤子が腰掛けて話している。

B・S

藤子 事務所に寄ったら、病院からの返事が来ていたから持って帰ったわ。はい、これがあなたの……(手渡しながら)私のはリユーマチ反応は出なかったそうよ。老人性の変化、変形性の関節痛ってことなんですよね。

卓郎 (急いで開けた封筒をテーブルの上において)私のほつも、特に変化はなかったよ。血糖もヘモグロビンA1Cも、ま

あまあ……。

藤子 散歩がよかつたのかしら?

卓郎 そうかもしれんな。だけど、年金も介護保険も、大変なことになりよるよつじやな。

藤子 年金記録不備で相談が殺到するし、訪問介護最大の会社は指定を打ち切られるし……。

卓郎 みな国家の責任じゃよ。

藤子 そうねえ……原爆のとき父は、直後に広島へ行って、爆心地の近くで救出作業を続けて、間もなく黄疸と血便で死んだ……私は母親に連れられて、母方の叔父を探しに行

った……それで、入市被爆で原爆手帳を買ったわ。でも、すぐ死んだ父には、なんの保障もなかったの。

卓郎 あの春、わしは国民学校の五年生で集団疎開になったが、妹の早苗は一年生だったから、家に残された。国が決めたことだが、私には負い目となっているんだ……。

O・L

10 遅くて短い梅雨があがった七月の蒸暑い夜。家の裏で藤子が携帯電話をかけている。

UP

藤子 雄一なのね(不安げに)お父さんが少し心配なの……。  
雄一 どうしたの、お母さん(画面を半分出して)糖尿病が急に悪化したとか……この電話、どこからかけてるの?

藤子 家からは駄目だから、外へ出て携帯でかけてるのよ……精神状態がおかしいの。去年もちょっとあったでしょ、早苗さんが家に来ていると思ってるんだわ。

雄一 お父さんの妹の早苗叔母さんのことね、もちろん僕は会ってないけど……じゃあ、今度の日曜、二十二日の昼に、そちらへ行ってみましょう……。

O・L

11 蓬菜園 五号、玄関

○藤子が雄一に小声で囁いている。

フィルター

藤子 忙しいのに、ごめんなさいね。

雄一 いいですよ。その後、別に騒動はありませんか？

藤子 ええ、そりゃあ。じゃあリビングキッチンでね……。

○卓郎がリビングキッチンで待っている。 DIS

○雄一と藤子が入って来る。藤子はお茶の用意。

雄一 お父さん、お変わりありませんか？

卓郎 うん、元氣じゃ。まあ、坐れよ。ずいぶん長かったよ

うな気がするのう……。今日は運転か？

雄一 いや、バスで来ました。

藤子 あら、そうだったの……。じゃあビール少しくらいなら

いいかしら？

卓郎 そう願いたいね。(藤子、冷蔵庫のほうに行く) 役所は忙

しいんじゃないのか？

雄一 そうですね、苦情の多い世の中ですから。台風四号の

被害のこともあります。窓口の連中は大変ですよ……。

卓郎 ここらは地震がないだけマシじゃよ。北陸の人は気の

毒じゃ。原発のトラブルも起こったし……。

藤子 (ビールとツマミを運んで) ハムとチーズぐらいしかな

いの。すぐ昼食の支度をしますから、ごめんなさいね。

雄一 食事はいいですよ。ちよつとだけ飲んで行きます。お

父さん、注ぎましょ。

卓郎 昼じゃから運転せんでも、あんまり飲まずわけにもゆ

かんが……。 (雄一に注ぎながら) こんどの参議院選挙は面白  
うなりそうじゃのう。

雄一 年金問題が焦点になりそうですよ。苦情の処理に、市

役所の窓口まで巻き込まれたそうです。平和祈念式典の準

備もありますしねえ……。

卓郎 その忙しいときに、よう来てくれた……。ここへ入ると

きも、いろいろ手数をかけたし……。

雄一 そんなこと、ありませんよ。僕は、妹夫婦に家業を押

しつけて、自分は勝手な道を選んだわけですから、いつも

みんなに済まんことをした、と思っております。

卓郎 わしもな、妹には済まんことをしたと思つてる。わし

らの老後の生活は、ここで充分じゃよ。(声を落とし、独り言

のように) あとは早苗の部屋のことじゃけど……。

雄一 えっ？ お父さん、なにか言つた？

卓郎 いや、別に……。ちよつと酔いだしたようじゃ。毎朝、

散歩をしながら体の調子はええが、歳のせいかな、酒は

弱つた……。おまえは、まだ大丈夫じゃろう……。

O・L

12 翌早朝、卓郎が散歩の時間、藤子の部屋

○携帯電話が鳴る。

雄一 もしもし……。ああ、お母さん……。お父さんは心配ない



ようだね。ときには、自分の世界で話しているようなこと  
もあつたけど……。

藤子（少し厭な顔をしながら）そうですね……昨日はほ  
んとに有難う。

雄一年取つたら、独り言や一人笑いする人が、よくいるで  
しょう。お父さんの様子、特に異常とは思わなかったよ。

藤子 私の思い過ごしたたのかしら……。

雄一 異常行動が出るようになったら、先生と相談する必要  
が起るかもしれないけどね……じゃあまた……。

F・O

13 八月六日及び九日の原爆忌、並びに十五日の終戦の日が  
過ぎた八月末の午後、二号の河野家のリビンググキツチン。

○中西鈴江夫人と藤子が雑談中。

B・S

鈴江 ……主人は広島島の出身ですが、私は関東の産なので、  
定年後に広島へ転居してからも、こちらの生活感覚に慣れ  
るまでには、少し時間がかかりました。

藤子 言葉なんかでしようか？

鈴江 それもありますけど……たとえば、お盆は七月十五日  
にしてみました。でも、こちらでは月遅れ盆で八月ですわ  
ね。初めはじっくりしませんでしたが、夏休みの帰省にも  
都合がいいし、終戦記念日も八月十五日ですよええ。

藤子 はあ……私はお盆へ合わすように、十四日にポツダム  
宣言受諾を決めたのかと思つていました……。

静香 ……原爆のことも考え違いをしていました。広島より  
東京大空襲のほうが被害が大きかった、と思つていたので  
す。そのように書いた本もございました……。

藤子 終戦の年の九月に、プレス・コードとか言つて、言論  
統制が実施されました。私は小学生でしたから、詳しいこ  
とは知りませんが……広島でお暮らしになつてから、なに  
か感じられることがございまして？

鈴江 ええ、実感として、被害が続いている……ということ  
です。たとえば胎内被爆とか、遺伝の問題などは、通常兵  
器の範囲内では起こりませんよね。

藤子 そうですええ……私の周囲でも、悲惨な実例はずいぶ  
んありますが……広島部隊が外地でしてきたことを考え  
ますと、加害者の部分もあるような気がします。

鈴江 難しい問題ですわね。私が娘のころには、戦災者、被  
爆者、引揚者というような言葉がございました。差別用語  
かもしれません……毎年、終戦の日の前後には、よく外  
地からの引揚げの特集が組まれますね……。

藤子 私どもは、とかく広島ばかりを考えてしまいますが、  
他の戦争被害も考えねばならないのでしょうか。

鈴江 そうなんです……軽々しく噂話の材料にはならな

いことですが……(少し躊躇ったあと)お隣の高木の奥様  
満州からの引揚げのさい苦労なさったようです……。

O・L

14 二日後、山根家の夕食時、いつものリビングキッチン。

○夫婦の会話

藤子 ……あなたにも黙っておこつかと思っただけ……

二号楼の高木の奥さん、引揚げのとき苦労なさったらしい  
の。二号楼の中西鈴江夫人からのお話……。

卓郎 (ちょっと不興げな顔をして)あの人、オシャベリなの  
かい?

藤子 そんな感じではないの。話題は豊富だけど、なにか教  
えられるところがあるのよ。あなたぐらいの歳かな……武  
家の娘みたいなのがあつてね。

卓郎 それで、どこからの引揚げ?

藤子 ハルピンですって。あなたは、ずっと以前に会社関係  
の団体旅行で行つたんじゃあなかつたかしら? あんの奥さ  
ん、なんだか難しい漢字を書いてらしたわ。

卓郎 ハルピンか……黒龍江省の省都だから、北のほうだぞ。

こんな字だろつ。

○卓郎がメモの紙に「哈爾濱」と書いて藤子に渡す。

藤子 そうよ、(はしゃいで)これだったわ!

卓郎 (機嫌がよくなつて)あそこは、モスクワを模範にし  
た街造りをしたけえ、ロシア風なんじゃ。最近は、以前の  
居住者の観光旅行には、いろいろ便宜を図ってくれるそ  
うじゃが……引揚げの当時は、大変だったろつよ……。

F・O

15 九月の台風のと、卓郎が朝食前の散歩をしている。

ホロ

○道端に一人の男が立ったままスケッチをしている。通りかか  
つた卓郎が立ち止まって挨拶。

卓郎 おはようございます。

男 やあ……毎朝、ご散歩ですか?

卓郎 そうです。いつもスケッチされるんですか?

男 いいえ、ときどきです。ことしは夏が暑かつたので……

(手を動かしながら)朝露の草花が綺麗です……。

卓郎 じゃあ、お邪魔してもいいけませんので……(言いながら  
立ち去る)。

D I S

16 山根家の朝食後、いつものリビングキッチン。

○爪楊枝を使いながら、卓郎が藤子に話しかける。

卓郎 散歩のとき、スケッチをしている人に会つたよ。

藤子 どこの人？

卓郎 一号棟のご主人じゃあないか、と思うんだけど……長話は、しなかつたよ。邪魔しても悪いからな。

藤子 そうかもね。あそこのご主人、俳句をなさるのよ。たしか、そんな話を聞いたわ。

卓郎 なるほどねえ……わしなんかとは、少し感覚が違つようじゃつた。確固とした自分の世界があつて、話し方にも飛躍や中断があるような感じなんだ。

藤子 俳句には「省略」が要るのよ。句画集でも、お出しになるお積りかしら？ 奥さんのほうは、「環境保護の会」で活躍してらつしやるそうよ。

卓郎 その話も河野夫人から聞いたのか？

藤子 多分、そうだったわ……。

○玄關のホーンが鳴る。藤子が出て行く。

卓郎 (独り言のように) 今日の手定は、どうだったかなあ…… (カレンターのところに行き) わしのところには、……なんにも書いてない。

○藤子が戻つて来る。

藤子 新聞の集金だったわ。あんなの事務所が纏めてくれると有難いのだけど……そうそう、憶えてらつしやるでしょうが、今日は私、広島で同級生に会つて来ますから……。

卓郎 晩飯はどつなる？

藤子 大丈夫、それまでには帰ります。

卓郎 (なんとなく不安げに) そうか……。

F・O

17 十月になって、少し秋らしくなつたところの事務所。

○高橋医師が来て、石川朝子や大村理沙と談笑中。

G・S

○山根卓郎が入ってくる。

大村 山根さん、どつぞ。お待ちしていました。

高橋 山根卓郎さんは……たしか二度目でしたね。

卓郎 そうです。最初はこちらに引つ越してきたとき……。

高橋 あのとときは一般的なメンタルチェックで……これから一緒に暮らしてゆくのに性格的な特徴を憶えさせて頂くという程度のことでした。奥さんとも同じように、お話を聞かせて頂いたんですが……今日は、お悩みでも？

卓郎 たいした問題じゃあないんですが、なんとなく……。

高橋 だつたら、ちょっと仕切りを作りましょう……大村さん、お願いします。

○大村と石川が衝立を運んで、山根卓郎を誘導する。

DIS

18 事務所の隅の、仕切られた空間。

○高橋医師と山根卓郎が向き合って坐っている。

B・S

高橋 さあこれでいいでしょう。なんなりとお話し下さい。

卓郎 …… 中学一年生の一割が、鬱か躁鬱だそうですね？

高橋 ええ、新聞に出ていましたね……それで？

卓郎 年寄りも、もっと多いのではないかと、思ったんです。

高橋 そう言えるかもしれないね。でも、あなたが心配される必要はないでしょう。

卓郎 私、もつとすぐ満七十五歳になるんです。後期高齢者なんですよね……。なんだか憂鬱になります……。

高橋 あの言葉は私も好きじゃあないのですが、まあ気にしないことにしましょうよ。

卓郎 でも、物忘れや思い違いがひどくなってきました。

高橋 短期記憶障害と言いますが、よくあることです。

卓郎 食べ物の不安もあります。北海道の白いチョコレート

だとか……関西の赤いお多福餅だとか……。

高橋 (辛抱強く聞きながら) わざわざ買いに行くほどのことでもないでしょうがね。

卓郎 こんなことは、先生に申し上げるような話じゃあないかもしれないですが……。大手の介護事業者が不正を見付けられて、社長さんが辞任しましたよね……。

高橋 たしかに、いろんなところに不安を撒き散らしました

が、蓬萊園 の皆さんとは関係ありません。ここは元気なお年寄りが夫婦で入られる有料の施設だからです。

卓郎 でも、いつかは介護保険のお世話になるでしょう……。どんなのがあるんですか？

高橋 まず、介護やリハビリが主体の介護老人保健施設というのがあります。私たちの、ほづらい がこれに相当します。家で生活することが困難なお年寄りには、養護老人ホームというのがあります。自炊のできない方にはケアハウスというのがありますし、軽い認知症はあるけれど、家庭的な雰囲気欲しい人にはグループホームとか……。でも、必要なときには、いつでも相談にのりますから……。

卓郎 とても憶えられませんが、なんだか気分が落ち着いたようです……。

O・L

19 山根卓郎が帰ったあと、石川と大村が衝突を片付ける。

○高橋医師が事務所に坐って話す。

高橋 …… 精神科の先生に相談するほどのことでもなさそうだが、ちょっと引つ掛るんだよね……。奥さんからも話を聞いておきたいんだが……。

大村 奥さん、ときどき寄られますよ。

高橋 呼びつけるのは失礼だから……。不自然でないように、

話を出して下さいな。

大村 はい。

高橋 民営郵政五社が発足したけど、こちらの郵便物は、ちやんと着いているかね？

石川 それは大丈夫です。

F・O

20 十一月上旬の事務所。大村介護福祉士もいる時間帯。

○山根藤子が立ち寄って、話をしている。

藤子 先日は主人がお邪魔したそうで……なにか変なことでも言っていないかったですか？

大村 そんなことはありません。ただ、後期高齢者になる

というのが、こたえたんでしょうね。もう七十五歳になられましたが？

藤子 ええ、誕生日を済ませたところです。

大村 そのあとで変わったことはありませんでした？

藤子 別に、ございません。私の関節痛も、まあまあです。

大村 そりゃあ、なによりです。

藤子 今はカラット晴れますので、それもいいんでしょうよ。今年は夏が暑かったので紅葉前線が遅れるって言われ

てましたけど、山のほうは赤くなってきましたよね……。

石川 秋も深くなってきました。虫の音が聞かなくなりま

したわ。でも松茸はダメですね。食べられるのは輸入物だけ（軽い笑い声）……。

F・O

21 クリスマスイブ、三号・中西の家。主人・忠直の部屋とリビングキッチンの間はドアを開けて続いている。小さいながらも、クリスマスツリー。

○山根卓郎・藤子夫妻が招かれている。

L・S ズーム・イン

中西忠直 ご迷惑じゃあないかと気になったんですが……。

山根卓郎 とんでもございません。もう誰も相手にしてくれない老人ですから、いつも暇です。

中西鈴江 奥様には、ときどき……でもご主人様は初めてですから、なんだか恥ずかしゅうございます。

山根藤子 いつも、いろんなことを教えて頂きまして……。

忠直（卓郎のほつを向いて）ご主人は糖尿病をお持ちと聞いておりますが、少しならアルコールは構いませんか？

卓郎 大丈夫です。

鈴江（藤子が卓郎の袖を引っ張るのを見て忠直に）あなた、無理強いをなさつちゃあいけませんよ。

藤子 いえね、少しぐらいいいんです。昔はかなり飲んでいましたので、ブレーキをかけておかないと……。

忠直 それなら安心です。シャンパンから始めましょう。

○乾杯が済むとオーディオをセット。「ホワイト・クリスマス」から始まり、シャンソンやジャズなど。

S・E

忠直 ……あとはワインかビール……どちら？

卓郎 どちらかというワインを……。

忠直 こりゃあ素敵な夜になるぞ……白か赤か？

卓郎 じゃあ白で……。

忠直 滅多にないことですから、ゆっくり話し合いますよ。

卓郎 中西さんは雲の上の人かと思っておりましたが、安心しました……今年はロシアのエリツィン前大統領が死んだり、国内では宮沢元首相が亡くなられたり（鈴江がワインを注いで行く）……こりゃあ、どつも……。

鈴江 （藤子に）私たちも頂きますよ。

忠直 私の部屋で腰を下ろしましょうか（手で案内）……。

パン

22 忠直の部屋に椅子をもつ一つ運び込んで坐る。

W・S

忠直 （卓郎に）続きをどうぞ。

卓郎 ……ええと、総理は内閣を改造されたかと思つとす

くお辞めになつて……。

忠直 ご病気のことでもあつたのでしよう……防衛省は、大臣が「原爆投下はしょうがない」などと暴言を吐いたり、事務次官の汚職など、問題が多いですなあ……。

卓郎 ……いろいろ承りたいと思つてたんですが……自治体病院の経営は苦しいそつですね？

忠直 民間病院もですよ。

卓郎 介護関係もいろいろ問題が起つたようですが……。

忠直 平成十二年に介護保険制度が始まつた時点で、厚生省は、初めの五年間は儲けさせるが以後は締めつける、と言つていました。だんだん施設の倒産が増えるでしょう。

卓郎 作らせておいて潰してゆく、ってわけですか？

忠直 この方針は、厚労省になつても変わらないでしょう。

卓郎 倒産が起これば、入所できない人が増えますか？

忠直 たしかに、介護難民が生じるでしょう。この 蓬莱園は、全額自己負担の施設ですから、介護保険との絡みはありませんが、なにか、ご心配なことで……？

卓郎 いや、別に急ぎの用件じゃあないんですが、（遠くを見るような風情で）妹が入る場所のことも考えてやらねばと思ひましてね。

忠直 知恵を出しあつたら、いい考えが浮かぶでしょうよ。

藤子 （もつ喋るな、というまづに卓郎の袖を引っ張つて）あまり

長居をしてもいけませんから……。

鈴江 私どもは構いませんけど……。

卓郎 いやいや、すっかりお邪魔してしまいました……。

F・O

23 正月、三が日。中西家だけ国旗が立ててある。

○家のまえで、鈴江と藤子が立ち話

藤子 明けましておめでとございませう。旧年中は本当にお世話になりました。

鈴江 こちらこそ。今年もよろしく。お願い申します。ご主人の妹さん、お見えになりましたか？

藤子 いいえ、ときどき記憶の混線が起るんです……もう死んでいる妹のことが、現在に出てくるようなんです。酔ったりしますとね……。

鈴江 さようございませうか。仲がおよろしかったのでしようよ……。(そこへ六号の河野静香が通りかかる) あら、河野の奥様、明けましておめでとございませう……。

静香と藤子 (互いに挨拶を交わす) おめでとございませう。

F・O

24 一月の雪の日、卓郎の部屋。

○窓降る雪を見ながら卓郎が物思いに耽っている。

ナレーション

卓郎の蔭の聲 あれは妹の早苗が、国民学校一年生の冬だった。あのころは広島市内でも、よく雪が降ったものだ。戦争は押され気味で、子どもらは遊びに飢えていた。五年生の僕たちは、雪投げ合戦に打ち興じた。すると、いつの間にか、早苗がそれを見に来ていた。そして運悪く、雪の手榴弾の一つが早苗に当たったのだ。僕は妹を背負って、家まで必死で走った。ただ、それだけの話だが、あのときの早苗の温もりと、彼女が死ぬのではないかと感じた不安を、忘れることができないのだ。じっさい、学童疎開が始まって、昭和二十年三月末に、僕は山奥のお寺に預けられた。父親が召集されたのは、そのすぐあとだったそうだ。そして夏には、広島に新型爆弾が落とされた……。

S・E

25 卓郎の部屋。窓の雪の向うに、きのこ雲

○金縛りに遭ったような恰好で、卓郎が呻き声をあげる。

フィルター

卓郎 早苗！ どこへ行った……？ 早苗……そうか……隣に……いるんだな、来ているんだな……サナエ……。(よろよろと立ち上がりかける)

藤子 (ドアを開けて飛び込んで来る。不安な表情) どうしたの、

あなた！ しっかりして頂戴。

卓郎（ふと我にかえって）ああ、お前か……。

F・O

26 六号の河野家、一部屋を応接間風になっているが、足の踏み場もないほどに、本が積み重ねてある。

○河野和夫・静香の夫妻と山根藤子の会話 お茶と干菓子が出してある。

静香 狭苦しいところで、ご免なさいね。当家では台所まで本が積み重ねてあるんで、私の生活する場所なんて、全然ないんです。

河野 歳とともに、文句が多くなりましてね……高齢者の離婚や殺人が起こるのは、お互いが我侭になって、抑制が利かなくなるんでしょうな。それで、お宅の場合は？

藤子 恥を晒すようでございますが、ボケと申しますか認知症と言いますか、ときどきオカシナことを口走ったりするんです。私の思い過ごしかもしれませんが……。

河野 ときには外でお会いすることがありますけど、オカシイことなんかありませんよ。だいたい、あの認知症という言葉がオカシイな……認知不能症なら分かりますがね、痴呆症のどこがいけないのかなあ……。

静香 それで、ご主人は今、どうしていらっしやいます？

藤子 主人は今、病院のほうへ……糖尿病の定期検査に行っております。その留守の間にも思ひまして、お伺いしたようなわけで……急に大きな声を出したりしますと、驚かされるでしょうか……お宅様が一番近いので、なにかありませんら、よろしくお願い致します。

河野 「遠い親戚より近くの他人」と申します。私は少々のことじゃあ驚きませんぞ。

静香 どうぞ、ご心配なく……。

藤子 有難うございます（そつと目を拭く）……。

F・O

27 平成二十年二月六日（水）、五号・藤子の部屋。片隅に小さな化粧台とベッド。

○小さな整理箱の上の小さな仏壇に、藤子が花を活け蝋燭の火をつける。狭い部屋を下から上へ順に写す。

パン

藤子 あなたア（卓郎の部屋に声をかける）……お灯明はあげましたが、お参りなさいますか？

卓郎（部屋から顔をのぞけ、出て来る）行くぞ！

ホロ

藤子 はい、これ……（入って来た卓郎に数珠を渡す）お母さんの命日ですから……。



卓郎 有難つ。……六十二年目か。

藤子 六十三回忌でしょうね。五十年過ぎると、あまり、しなくりますけど……。

卓郎 そうじゃのう。(ちょっとだけ簡単に拝む)……わしはこれで済んだよ。

藤子 (なんとなく機嫌のよくない声で) じゃあ、お茶にしましよつか……。

DIS

28 山根家の、いつものリビンググキッチン

○なぜか重い雰囲気でお茶を飲んでいる。

藤子 ……「広島では雄一たちが、ちゃんとお寺さんを呼んで法事をしてくれるそつです」

卓郎 そりゃあ有難いことじゃ。こつちでも、お前が仏壇を用意してくれたから、お袋も親父も、いつでも帰つて来れる。お袋は、あれから半年しか生きられんかったが、体中から血が出て可哀相じゃった……。

藤子 でも、お父さんの復讐が間に合つたのが、せめてもの慰めだよな。

卓郎 そうよ、でなきやあ死んでも死に切れんかったらつて。わしやあまだ六年生でのう……。

藤子 お父さん、男手一つで育てるのは、さぞや大変だった

でしょうね。

卓郎 それを思うと辛いんじゃ。……せめて早苗は、わしが面倒を見てやらんどのう……。

藤子 ……？

卓郎 あれも、そのつち介護が要るようになるじゃろつ。

藤子 でも早苗さんは、もう亡くなられたんでしょ？

卓郎 ……？

藤子 (作り笑いをしながら) 命日は八月六日……毎年、お線香をあげていたじゃありませんか。

卓郎 ……「だけど去年は、帰つて来たじゃあないか」

藤子 どこへですか？ (少し険しい顔をして) あなた、しっかりして下さいよ！

卓郎 そこさ、(藤子の部屋を指差しながら) あの部屋だよ。

藤子 あそこは私の部屋です！ (さらに険しい顔) いつからいるの？

卓郎 ……「ずっと以前からさ」

藤子 あなた、まさか……早苗さんと私を混同してるんじゃあないでしょうね！

卓郎 なんて怒るんだい……。

藤子 (フチ切れたように) いい加減にしてよッ！

29 若い頃の藤子の顔

ナレーション

藤子の蔭の声 あの時、被爆者健康手帳を持っている私は、誰からも相手にされなかったの。それだけじゃあない、広島以外の土地に行くと、伝染病のように嫌われたものだったわ。私なんかは、あとから被爆地に入っただけだし、回数も時間もしたもんだけど、それでも差別された。そんなとき卓郎は優しくかった。だがそれは、私の背後に、妹の早苗さんを見ていたからではないだろうか？ 私そのものではなく、妹の代償として愛したのではなかったのか？ 今にして思えば、そつに違いない……（なにかが壊れるような大きな音）

S・E

30 先刻の部屋

○藤子が険しい顔で卓郎に噛みついてる。

藤子 ……どつなのよッ、あなたッ！

卓郎 なにを怒ってるんだッ？

O・L

31 蓬萊園 の事務所。衝立て区切った空間。

○藤子と高橋医師の会話 あとで大村が記録係になる。

高橋 ……「ご希望はだいたい分かりました。精神科の先生に相談するようなことが起こった場合のために、もう少し詳しいお話を聞いて、いちおう記録を取っておきたいのですが、よろしいですか？

藤子 それは構いません。

高橋（衝立の端まで歩いて行って）大村さん、ちょっとメモして下さいな。

藤子（入ってきた大村に）また、お世話になります。

大村 どうぞ、お気軽に……。

高橋 ……それじゃあ、確認ですが、「ご主人の卓郎さんは、妹の早苗さんが生きていて、ときどき現在の家つまり蓬萊園 五号にもやって来るといふこと。それからもう一つ

は、奥さんの藤子さんを、早苗さんと間違えてるんじゃないか、ということですね。

藤子 まあそついったところですよ……。

高橋 願望と現実との混合は、よく子どもには起りますね。動物園へ行きたいと思ってるよ、「ぼく、動物園に行つたよ」と言ったりします。そんなとき「よかつたねえ」と言つてやれば一件落着なのに、「嘘をついたらいけません！」と叱りつけていると、嘘つきになつてしまふ……。

藤子 ……。

高橋 「ご主人が妹さんに拘られるのは、ご自分が疎開して助

かったのに、妹の早苗さんは家にいたため被爆死した……  
あとかたもなく、即死だったんでしょねえ。それで命日  
の八月六日より、田舎へ行くために別れた三月末の面影の  
ほつが、脳裏に強く残っているのかもしれない。

藤子 だからといって、私と混同しなくても……？

高橋 その点を立腹のようですが、男性は甘えん坊なんです。  
ご主人はお母さんも早く亡くされてますね。山根卓郎  
さんにとって藤子さんは、母親であり妹であり、すべての  
女性なんですよ、きつと……間違つた認識があつても、す  
べて否定するのではなくて、その世界を受け入れてあげた  
ほつが、認知症の進行は防げるのだそうですよ。

藤子 (じつと聞いている)……………。

F・O

32 彼岸の過ぎた三月下旬、六号の河野家のまえ。

○幕で掃除をしていた静香が藤子を見て話しかける。

静香 山根さんの奥さん、輸入の食べ物、みないけません  
ね。お隣の国の餃子は食べないことにしていますけど、ど  
こに何が入っているか、分かりますやしません……。

藤子 そうですわねえ、台湾では野党が圧勝しましたので、  
中国との関係は軟化するでしょうが、国内でも産地の表  
示のごまかしや、老舗のインチキが続いていますし……。

静香 自民党の総裁選では福田さんが予想外の差で勝ちまし  
たが、アメリカの民主党の選挙では、クリントン夫人とオ  
バマ氏が接戦になってきましたね。(ちょっと藤子の表情を窺  
いながら)……………ご主人のご様子は？

藤子 先日、ちよつと衝突があつたんですが……。

静香 うちなんか毎日ケンカですよ。例の、家中に積み重ね  
てある本の件で……………でも、どの道、残り少ない人生なんだ  
から、まあ大目に見てやろつかと思つたりしましてね……。  
藤子 私もう少し反省してるんです。過敏になりすぎてるんじ  
やあないか、という気がしました……。

O・L

33 平成二十年三月三十一日、山根家のリビングキッチン。

○卓郎と藤子が話している。

卓郎 ここへ転居することに決めてからもう一年になるな  
藤子 そうですわねえ、初めは私、不安もありましたの。年取  
つてから環境が変わると、ボケが進むって言うでしょ……。  
卓郎 みんな近所の人がいいから助かったが、そう言えば、  
わしゃあボケたよ。すぐ忘れるし、思い違いもする。……

一月だったかな、お前を怒らせたことがあつたよ。早  
苗のことだな……。

藤子 よく憶えてらっしゃる……あれは私の思い過ごしだっ

たのよ。人間には、忘れられないことがあるものなのね。  
卓郎 そりゃああるが、お前が仏壇を置いてくれとるけえ、  
みんな、ここへ帰って来ることが出来る。

藤子 あなたの発言、お父さんやお母さんは死者として考えることが出来るけれど、早苗さんは死者ではなくて、別れたままの人なのね。ちょっと灯明をあげましょうか。今日はあなたが、疎開で田舎に出発した日ですから……。

〇・L

### 34 藤子の部屋 母親の命日のときのように、蝋燭の灯。

〇卓郎と藤子の会話の背景に家族の写真、早苗の写真などが、  
コラージュ風に点滅する。

卓郎 なにもかも、お前のおかげじゃ……みんなが帰って来れる。これからも錯覚を起こすことがあるかもしれんが、許しておくね。

藤子 いいのよ、あなた……。

卓郎 わしがこれまでやってこれたのは、お前のおかげじゃ。

藤子 私もよ、(ちょっと涙ぐむ)あなたのおかげ……私は原爆にも拘り過ぎていたの……早苗さんのことも、あなたと同じように考えてあげるべきだった……。

卓郎 早苗はのっ、お前は会ったことはないはずじゃが、

気立てのええ、可愛い子じゃった。早苗が帰って来ても、ええんじゃの？

藤子 勿論だわよ、(声を抑えて泣き出す)……あなたの妹は私の妹だもの……。

卓郎 有難う。(藤子を抱きしめる)

〇藤子の嗚咽が続く。

F・O  
(完)

\*\*\*\*\*  
以前から「レーゼドラマ」という言葉はありました。舞台での上演は考えず、読んで味あう思想性の強い戯曲のことで、演じるのには適さない戯曲を指す場合もあります。

しかしテレビの脚本の場合には、この考えが同じように成立するかどうかが、疑問視される方は少なくないでしょう。

なぜなら、それは読者が読むものではなくて、スタッフの方たちが演じるために読むものだから、「読むテレビドラマ」という概念そのものが奇妙なのかもしれません。

にも拘らず、あえてそのようなものを書いてみたのは、多くの小説群が興味の対象から外れ、身の多くの物語世界がテレビの中で展開されている実情から、イメージ喚起の手段として、実験的にチャレンジしてみた次第です。